

無量寿

【発行】雲夢山寿命寺

2020
春

CONTENTS

[P1] 巻頭言 [P2-3] 永代経講師法話 [P4] はなまつり開催
レポート、おてらおやつクラブ通信、新年度役員・世話方紹介

大津市雄琴 3-19-36 TEL/FAX 077-572-5125 <https://jumyouji.net/>

永代経 中止。



5/17 に予定していた永代経法要は、新型コロナウイルス
又感染拡大の状況に鑑みて中止いたします。代々勤め
られてきたものを休まねばならないのは、申し訳なく
残念至極ですが致し方ありません。せめてもの措置と
して住職が内勤めにて法要を修めさせていただきます
(動画配信画策中)。また予定していたご講師の法話を
この寺報に掲載します。是非お読みください。

【巻頭言】 コロナ禍に弥陀を想う。

先日テレ
ビでフラン
スの経済学
者で思想家の
ジャック・アタリ氏のインタ
ビューを見ました。なんでも歴代フランス
大統領のブレインを務めるなど、政治・経済・
文化に大きな影響力を持ち「欧州を代表す
る知性」と呼ばれている方だそうです▼ア
タリ氏は常々「利他主義」という思想を主
張しており最近もコロナ禍で混乱する世界
に向けて「今こそ他者のために生きるとい
う人間の本質に立ち返らねばならない。利
他主義への転換こそが人類サバイバルのカ
ギである」と訴えているそうです。番組で
はインタビュアーがそこについて「買占め
や国境封鎖の中で利他主義なんて、あなた
は『無私の聖人』ですか?」と質問します。
皆自分を守ることに必死なのに誰がそんな
話を聞くのかと言うのです▼アタリ氏はこ
れに「利他主義は『合理的利己主義』に他
ならない」と答えます。例えばマスクを買
い占めたら、周囲にマスクが行き届かず感
染が広がり結局自身の危機が高まります。
また国内の感染を収束させても海外で続け
ば、いつまで経っても五輪などできません。
利己主義は短期には自分に利をもたらすか
もしれませんが、長期で見れば他者の幸福
なしに自らの幸福がないことは明らかです。



つまりアタリ氏の利他主義とは自己犠牲を
払って他者を助ける慈善活動ではなく、最
も合理的で自己中心的な行動なのです。そ
して人類が今そこに向かわなければ、パン
デミック収束後の世界は悲惨なものになる
と警鐘を鳴らすのです▼私はこの話に深く
感銘を受けるとともに、阿弥陀さまのこと
を想い出していました。阿弥陀さまは「あ
なたを必ず仏にする。もしできないなら、
私も仏にならない」と誓い、一時も休まず
働き続けているとお経にあります。仏にな
ることが究極の幸せだとすれば、この誓い
を「あなたが幸せでなければ私の幸せもな
い」と味わうこともできます。自らと他の
利を同一に見ていくことを仏教では「自利
利他円満」と言いますが、アタリ氏の思想
にこれとの通底を感じたのです▼私自身、
閉塞感の中で利己心が日に日に増大するの
を感じています。今こそ阿弥陀さまのお心
を聞かせていただかねばと思います。その
絶好の機会だったはずの永代経は中止に
なってしまうましたが、「南無阿弥陀
仏」のたった六字に阿弥陀さまの
お心の全てが収まっているとい
うのが親鸞聖人のおおし
えです。朝な夕なにお
念仏し、そのお心に触
れさせていただきま
しょう。(称名)



永代経法話

「後ろ髪を引かれて」

今回の永代経にお招きするはずだったご講師の法話を掲載します。本願寺の月刊誌『大乘』の2014年3月号に掲載されたものです。私は先生とは面識なくご法話も聞いたことがないのですが、この誌上法話が心に留まりいつか寿命寺にお招きしたいと思っていました。ようやくそれが叶うはずだったのに、法要が中止になり心底残念ですが、来年以降改めてお招きできたらと願っています。今はこのご法話を改めて味わって、その時を楽しみに待ちたいと思います。皆様も是非お読みください。



加藤真悟 師（大阪・自然寺住職）

独り身の彼女は、ある年の夏、医師から胃がんの宣告を受けました。しかし、八十歳を超える高齢ということもあって、手術は受けられずに、緩和ケアの病院に入院することを選ばれました。入院をされた日から、私は幾度か彼女の病室を訪ねては、その様子をうかがっていました。ところが、ある日の早朝、彼女から連絡が入りました。

「昨日、ベッドから落ちてしまいました。足の骨を折ってしまったので、明日、手術をすることになりました」

それを聞いた私は手術の翌日、お見舞いに行きました。部屋に向かうと、何やら叫び声が聞こえてきます。その声は、部屋に近づくにつれて大きくなり、中に入ると彼女自身が叫び声を上げていました。看護師の肩をつかみながら、大きな声を目いっぱい張り上げている彼女を見て、私は「どうなさったんですか？」と看護師に尋ねました。「身動きが取れないことへのいらだちと、ふがいなさがおつらいんだろうと思います」とのことでした。その看護師が「かわっ

てもらえませんか？」と、私に肩をつかまれる役を交代してほしいと言われるので、「わかりました。どれくらいこの状態は続きますか？」と尋ねました。

「薬を飲まれたので、あと三十分ほどで休まります」

「三十分か…」と私は思いながらその場にいたのですが、三十分経っても二時間経っても、いっこうに彼女が休む様子はありません。「早く寝てくれたら…」と思い始めた頃、彼女は叫ぶ声も枯れ、やっとウトウトとし始めました。

「やれやれ…」とホッとしていた私に、「住職さん、帰りはりますわなあ」と、ぽつりと彼女が言いました。

「帰ります。お休みになられたら、帰ろうかと思っています」と返事をしたのですが、少し経ってから、また、「住職、帰りますわなあ」と、あらためて聞かれます。ウトウトとし始めていた彼女ですから、先程のやりとりを忘れたのかと思ひ、「ええ、帰ります。お休みになられたら帰ります」と再度答えました。すると「そう

ですわなあ」とつぶやかれたはずなのですが、さらにしばらくすると、「住職さん、帰りはりますわなあ」と三回目の言葉。さすがに、これだけ尋ねられますと、「そうか…そばにいてほしいって、帰ってほしくないっておっしゃってるんだらうな…」と気がつきます。しかし、帰らないわけにはいきませんでしたので、「帰ります。またあらためて、日の近いうちに来ますね」と言いました。すると、「住職さん、あのね、帰る時には声をかけてから帰ってください。黙って帰らんとってくださいね」と、かすれた声で言われたので、その日、私は彼女が寝息を立てるのを確認してから、耳元で「帰ります。また来ますね」と、小さな声で伝えて帰りました。

薩のお誓いの言葉です。「苦毒の中に身を止くって言うけれども、少しも私にはかなわないうことだな…」と痛感しました。彼女の孤独な苦悩の中に身をおくどころか、途中から面倒にさえ思っていたのです。彼女とのご縁を通して知らされた、私の姿です。氣遣われ、育てられていたのは、私自身だったのです。

の私が支えきるのだから」と、はたらいてくださる仏さま―南無阿弥陀仏は、自らを抱える偽りを知りたがらない、しかし、それにおそれるばかりの私の上に、今届いてくださっています。何とも深くあたたかな世界です。「寒い中で丸裸になるのはつらいが、あたたかいお風呂なら安心して丸裸になれる」とおっしゃった方があります。導き支えられる世界がないまま丸裸になるのはとてもつらいことですが、私を慈しみ、抱いていてくださる仏さまのぬくもりの中では、むしろ丸裸の方が安心できるのかもしれない。私の姿が常に偽りなく知らされ、変わる

た。なんとなく後ろ髪を引かれるような思いで、帰る道すがら思い出したご文がありました。私たちがおつとめしている「讚仏偈」の最後、「仮令身止 諸苦毒中 我行精進 忍終不悔(けりようしんし しょくどくちゆう がぎょうしょうじん にんじゅうふけ)」です。法蔵菩

せん。「お見舞いをして役に立っている。いい人間だ」と思いたい。親鸞聖人は「煩惱具足の衆生は、もとより真実の心なし、清浄の心なし」といわれます。非常に厳しいお言葉です。あてになるものなど、この世には一つとしてないのです。そもそもこの私自身が偽りに満ち、あてにはならないのです。この私の姿を、仏さまは丸裸にして知らせます。そんな身勝手に、どこまでも偽りに満ちた者を、片時も離れずに、慈しみをもって、しかるべき方向へと導き支えていこうというものが、はたしてこの世界のどこにあるでしょうか。

から、今日この時を、導かれつつ本当に歩ませてください。ただけるものと、味わわせていただくことです。

「まかせておくれ。絶対に捨てないから。こ

かえります…」





はなまつりを開催しました。

4月8日（水）午後、おしゃかさまのお誕生日にはなまつりを開催しました。とは言え今年新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、子どもたちを一斉に集めてのお参りやゲームなどはせず、ただ向拝に花御堂を設置し、随時甘茶をかけてお参りしてもらうという形での実施としました。

大々的な告知もできず、子どもたちが来てくれるか心配でしたが、門前の上りを見て数人ですが男の子たちが入ってきてくれました。夕方まで自由に遊んでいいよという

と、本堂で卓球大会が始まりました。それに飽きたら鬼ごっこ。ふさぎ込みたくなるような世情でも、子どもたちは元気です。夕方までたっぷり遊んで帰っていきました。

難しい状況ですが、やってよかったなと思います。みんなが手を合わせられる場所や機会が少しでも増えるよう、工夫していきたいと思いました。最後になりましたが、婦人会はじめご協力いただいた皆さん、どうもありがとうございました。

おてらおやつクラブ活動レポート

今年2月、近隣寺院様より「おてらおやつクラブ」に活かして欲しいと、まとまった量のお米の御供をおさがりとしてお預かりしました。

そのお寺ではお米のお供えがたくさんあって、住職家族だけでは余らせることも少なくなく心を痛めておられました。そんな折「おやつクラブ」のことを知り、悩んできた問題がおすそ分けとして子どもたちの笑顔になって解消されるという仕組みを大変喜ばれ、寿命寺でお米を預かることになったのでした。

その量およそ60Kg。いつもは支援先に宅配便で送っているのですが、良い機会なので直接支援先に届けることにしました。支援先は瀬田にある「NPO法人あめんど」。学校に通うことや家庭で過ごすことが困難な子どもたちに居場所を提供する施設です。初めての訪問でしたが、職員の方から子どもたちの置かれた状況や貧困など、様々な課題についてお話を聞きました。また、こちらからのおさがりについて感謝のお気持ちを受け取ることができました。訪問時には子どもたちは不在でしたが、喜んでいてくれるのだと思うと、こちらも嬉しくなるとともに、今後の継続した活動のためにも工夫が必要だと思い至りました。

皆さまに「おてらおやつクラブ」の活動が少しずつ周知される中で、「活動に活かしてください」とお供えをいただく機会が増えてきました。ご門徒のみならず、信徒の方、ホームページを見て下さった方など様々です。中には、発送作業を手伝いたいとお申し出もあり、感謝の念に堪えません。ただ現状は、おさがりの発送のペースは年に数回となっており、安定した支援には至っていません。

おてらおやつクラブの仕組みの良いところは、おすそ分けを受け取る方が喜ばれるだけでなく、おすそ分けをする方にも、喜びがあるところです。この活動を通じて、仏教のいう「ご縁（縁起）」を、僅かながら、しかし確実に体験することができます。有縁の皆さまにもぜひ、引き続きのご協力を賜りたいとお願い申し上げます。（坊守）



新総代・世話方について

3月29日（日）の門徒総会にて総代の改任と世話方の新体制の紹介がありました。

（以下略敬称）

■総代（～2022年3月末）

- ・古川清二（再任／責任役員）
- ・古川重雄（再任）
- ・中川茂治（再任）
- ・三上 務（再任）
- ・傍島公男（新任）

※これまで長きに渡り総代・責任役員としてご苦勞いただいた伊藤庄蔵氏が退任され、相談役に就任いただきました。

■世話方（～2021年3月末）

- 【主】古川久詞・三上金司・鈴木彰
 【副】池見裕暢・船木敏男・田中宗幸

仏婦会館にエアコン・冷蔵庫の寄贈

このたび、三上端子さまより標題のお品の寄贈を頂きました。大切にに使わせていただきます。ありがとうございました。

LINEはじめました!

寿命寺の公式アカウントを開設しました。門徒の皆さまへの諸連絡に用いていきますので、是非ともご登録をお願いします。スマートフォンで下記のQRコードを読み込んでください。

